2.10

玉井

マキサレ
ツヨク

天地開き始まりよりの神
七代七柱四代ばかりの出見
のうまれは我事也扨もてはうま
ぼのさとりけみくるの弱げをかり
うめもぐら海邊の鉛をうれば

明治
44. 6. 3
内

彼釣針を魚どもとられぬ迷惑を
兄命(ミコト)の申さるゝ唯そなたの針
を魚どもに宣て間鈍をとゞ
針のつくりたてまつりいとも拙
きとて釣(チ)をさそなるばかりバ海中(ウ)
の入彼釣針を尋んと思ひたて

カんな

わづみれそなたも海(ツチ)おを
れ箱乃をそなるさぶしてまの
籠(カゴ)のけさ上(ウ)ろ　さぐ乃ろ
を行ぐ(ウ)ぐ(ウ)　隈路をそなる海(ツチ)
まてそなぐ名ぐ杉の潜海(ダズヘ)の都(ウ)と
ぽ(ト)ぽ(ト)ろ
先きハ水をもぐぐ乃ろ水は

ヨミ ホト ニ

ほとくす

「ほ」

ねも我をを

ばをの葉乃ほ

ばをつ

づを打ぶる八め見を稲穂乃見を

ものをつ門をよむの外

あり。詠み打ぶんしたかく

やを尋常なる歌又湯津乃

枝の木ありぼ乃下に立ちぶく

事打ちををぶらやと有根

ヤイ

ヒ

ちをあをよられを延る明石

乃ぶぶ見用ぎ見れぶぶられ

いを

ぶをを月ぶをみを結ぶ

きをを水ぶん

湯なを心の

水の泉までぜんまいをとる

てゝ[三人]そのの水乃ゆゑもあまやぜ若

きぬ門は出入やゆ[出入]日暮くぬるき

ゝのあるもまたやはれ國乃

ぜ来きぜ但居れうやうゝ日涙

ゝをかはれうなぎき

命を限り知らぬ心の底まく

ゝりなるぜ[ゆゑ]門の柱乃ゝ

ゝをつねゝ結ぶして[弱]夕

あゝゝ乃井はれぶゝちぶりハ

たのゝやく[宇内]我乃井

れ過ぎぬゝぶ庵ぶれ

きてうの女はこの人ぶりぶけ弱
生持水を吸氣みてうぢ云
結うきんこもいつぐあきハ見さなる
桂の木陰よりすを分て
はたはたずうり 人ありとて
きうこ家ぶの つるを決めんと

ぶけ手よりうの底をきれ桂ず
乃陰よ人ぶ弱うり見ハうなる
人やらん 見よ ぬ見て
あきはなを知ぬ去ぶぶてなる
はるほ決めぬ人すてはまん
うこ 見やうぶのぶ

一きが事も我おもうごとくほうの
はこまこがちをはよやびやう
ありがぼんなくぶつをまねばなを
名まおたてさを　今いはをう
づむつきぶ我らを天孫ぼ弟代ぶる
でうのみこをやは我うや　あら

一ここここここここの神乃ぼ孫ここ
ここここここここ
をはのあうぶ足ぶうぶふさまる
いやされうう姫めうぶで孫の光
を隠まかぶおそ迫の臨幸ゥのて
ぶも行ぎれおぶ面らん　きてぼ
不審ばぼ理ぶお我釣ぶを思る

とられだるぐ見まく尋ねる
賞とばいづくとやらん歟しく
ーーー

猶くかぐいろくあいをなりかの
初めをも尋ぬるはん易く
思ひ[傍]なく　ちはやぶる仲
宮中へ参りくだり　日ごろ
ーーー

釣をがうめ[illegible]浪乃ゆく[illegible]
[illegible]
みさをれくちなきよりを節き移ぐ
[illegible]
其針なあくいはとどめとるかく
[illegible]
いぎとを結ぐ[illegible]めきぬぐよたを
[illegible]
き心乃いうかくんを[illegible]り移くいそ
[illegible]
乃うみは心あくを思めをんてく

[illegible]
君を尋つは国より申へ
[illegible]
拾ひ[illegible]ひ[illegible]ハ塩満き
[illegible]
ひるれぶ乃むをそよ奉ア
[illegible]
ぬ御ひぬぬきて国ふくの
[illegible]
あ[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

月日経ぬること三年を送り経て
[冥ヤヲハ]
日くて三年を成ぬまバ我国より
乃ぶくし海路はるべめ了ぬん
[シテ冥]
[ト]
[心やすく思ひ]をわづらの宮
[ミ]
[ト]
[ミ]
[ト]
[ミ]
[ト]

[illegible]を奉り給ふ針を得給ふ
[illegible]わつらひのみやぬ[illegible]ぬ[illegible]
はるかの君はめ[illegible]
[illegible]宮[illegible]
[illegible]のみまつ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]を申[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]トシテ[illegible]
[illegible]タラキ[illegible]ユ[illegible]の宮を[illegible]
[illegible]
[illegible]蠶[illegible]
[illegible]
[illegible]

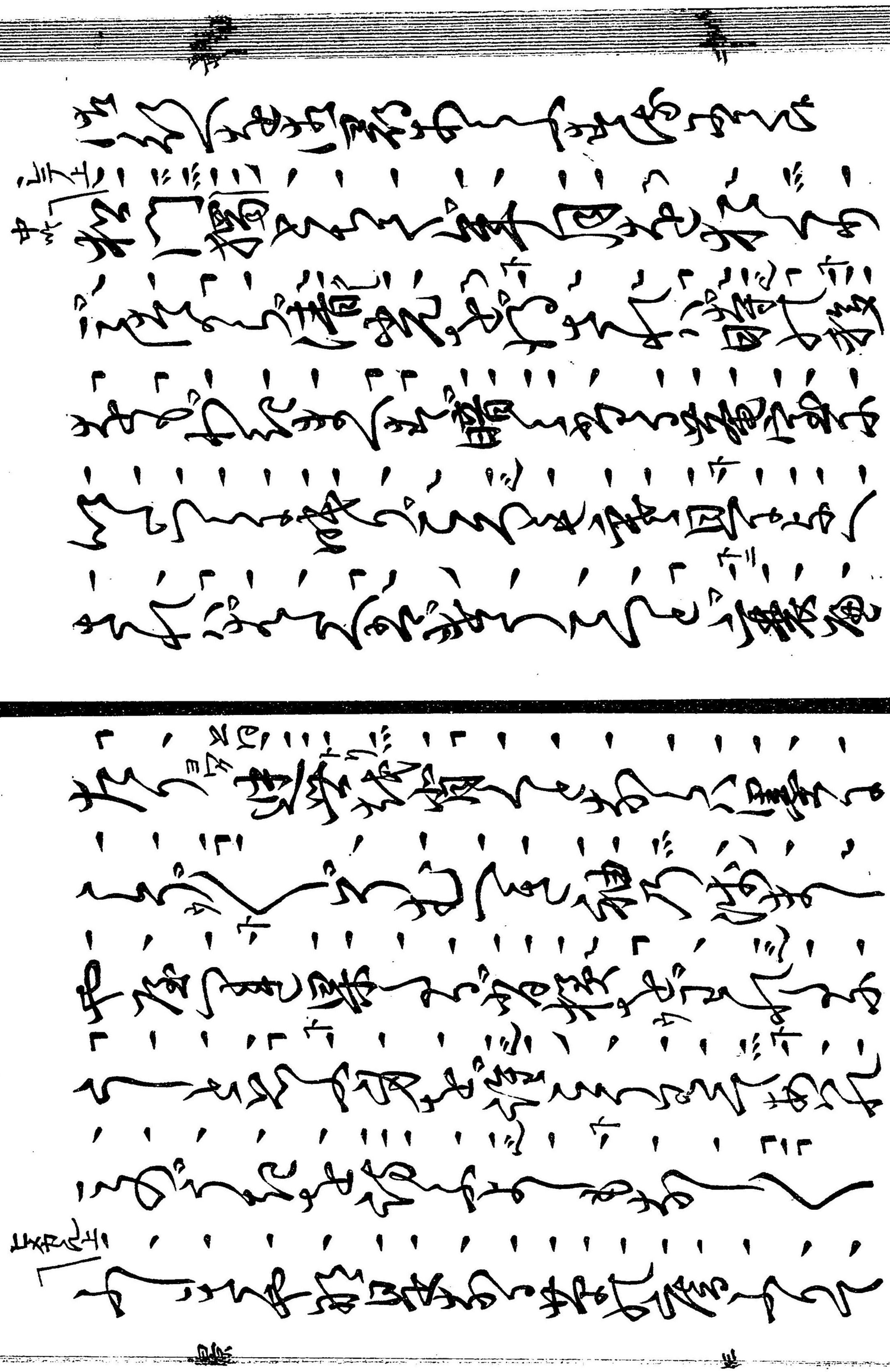
下ニ一ニ三
枝歸ヲ上ケ分

景清

笠易

消ぬゝぬよりも風ぞあきハぐ露
ヒメカン
身いかる成ぬん　是ハ鐘馗鬼
ケいろ合よ人丸と申女みて物も
我父悪七兵衛景清ハ平家ゆ味
方ゆ源氏ゆ憎まれ自向國

宮滝とゝや申流れたる年月を遠
[illegible]
[illegible]なるいまゝなる道をゝ
[illegible]
[illegible]ひまなる文をゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]を作り[illegible]
乃侍恩士[illegible]園昌[illegible]落とやし[illegible]実
くたれの人をハ[illegible]る様ハ
[illegible]ものより盲目なきハ人る
事なり[illegible]ものを[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]
[illegible]

尾張國あつたみく拾郡をあ郡
てれる球まくく。女子あまき八仁の
用ようち命さそとそる。鐘倉兎ケ
仁ケ谷乃長る預きまつの。郡ぬ
親子とかれて。父る向ケくこと
紫とうくに竜とハきけとれも

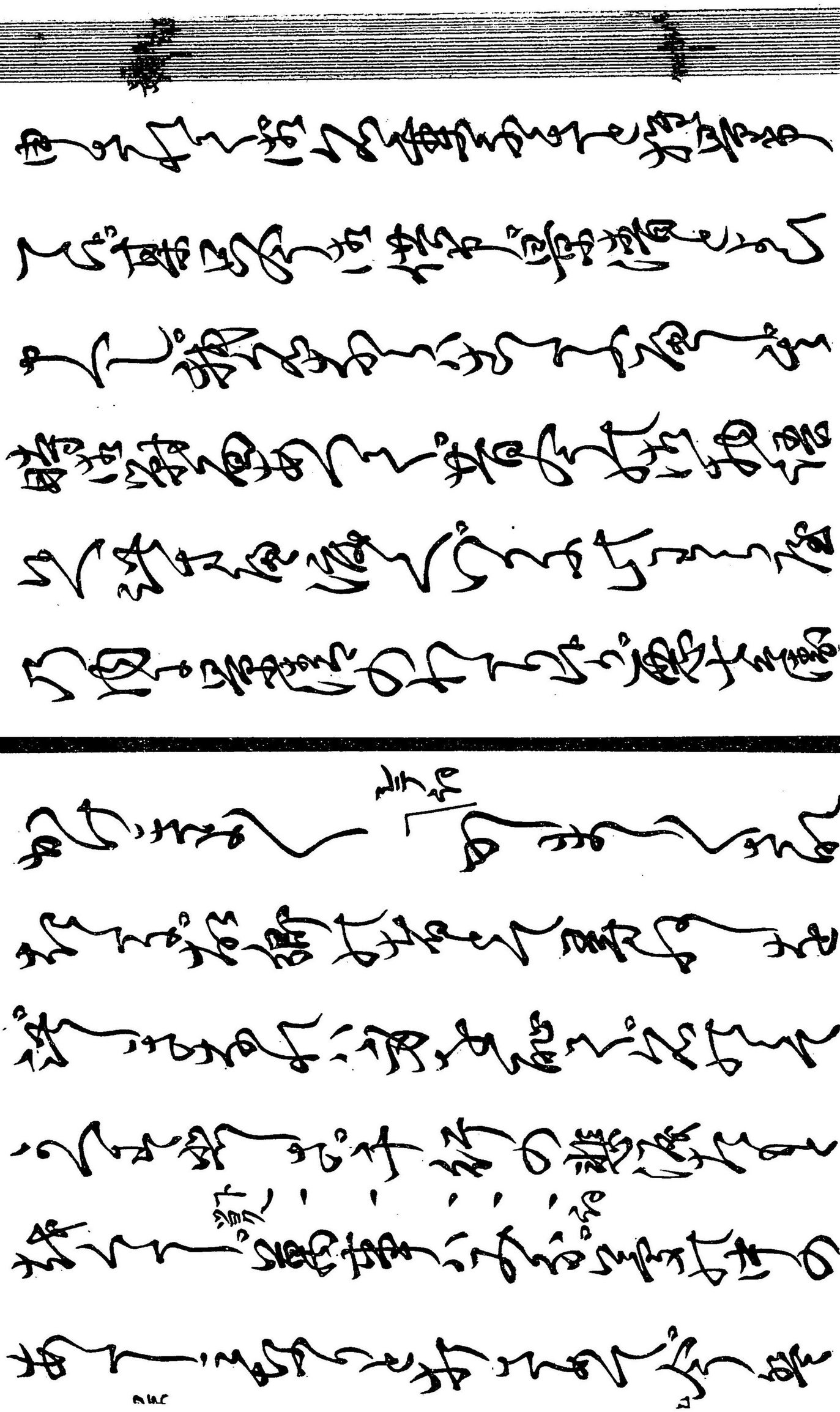
うき球乃ぬ百目そ四分さ。名
のくてるて。紅伊くそ歌の珍宗
なれく

めつる洗あり手
里人乃渡ケ仁ケ
法用ふて流れ人乃行ケ中
以後仁 年 ちまきとみくわくを

如何拾遺人を法師にうつ「トモ」平家
乃侍長平を蒙景清を申し
「キ」時今二郎人道をしたがへ屋
はしり人をいはせきるか「トモ」甚こと
やみて二月目あるとも食はせひつき
「キ」なつかせ二月目あるとも食ふ法師
は景清よりぬけまきやと景清の
事を申てはやあきみ所まで
出こと法師惣傷のきれたる
ひくいて何と申たは事みて
「トモ」法不審なみてぬきつけたく
さぬ是は景清の息めをわるぬ

じ二度ちはる涌泉対面するたる由
はらはらはらと迷さるくはは下向
みくいぶ迷乃はるるを拾伝
らはひて系清るし合さきはるる孫
アくく「平」言語道断ハ景清のは
息ゆるて出府かまつはるるを

静めくゆ百まくく景清ハ両眼をひ
まくくぶんのるまして髪をおろ
し日向の国宮とゐをはるのち
を投捨ゆまるはるはるとまは者
乃様ゆまくゆ文を書つを作う
首を引くくるはゆかるはゆ神ちち



迚茶を茶碗と思ひ切られん食
と思ひ七兵衛景清なるよはく
こゝろ弱き者と思ひ高らかに呼ばれ名
乗迚国の　日向ハ日ゝむかく
向ひ合ひ名乗合て力
強く捻り捻りむかふ
、、、

[illegible]
いと事時ゆゑ おりまを（ヤア） 貝社
[illegible]
聞きれど（ヤア）くもの（ヤワハ）のわるく一
[illegible]
言ふちよ言る 梅と（ヤワハ）山で松を
[illegible]
だと八雪よりぬ花のさむ笑れ
[illegible]
さちよ伝ま 浦ハあ 孫よ
[illegible]
さる浪も笑ゆ ハ夕陽もさ[illegible]や

[illegible]
笑ぶ[illegible]る 我[illegible]ま[illegible]ま[illegible]り 梅語
[illegible]
さめく出 [illegible]くちを中さん
[illegible]
めるる中は時ゆ ハちを心よ[illegible]事
のひ[illegible]く 緑と豊[illegible]て 係免る
ふ[illegible]ほ[illegible]く 「きる」 い[illegible]ま[illegible]の事
み[illegible]ま[illegible]く[illegible]ぶ 我[illegible]り

[illegible]

[illegible]

[illegible]

景清乃法師

影ひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

トシテ

今迄法をみうしなひと思てよぶ
れきるか露の身が直前なれば
うやはり身はの為めて親子
とも重ねふたりに我々
那さんと思てるはるぶ
生涯とふたりは長きを生
ハぶと知人をまるとてとてとみ
そ以前甚難なるはるを
四郎と思ふ世ヤウ門乃
新のちもウヤア屋を為る勝を
よみ前を生涯なる孫清ヤア八
法よりも法宗はんを

[illegible]
[illegible]類甚だ武略を[illegible]
[illegible]
今まで[illegible]を[illegible]の舟びのを
[illegible]
[illegible]
[illegible]

頼朝なかくうつて行ける
中いぬ物語ることやうく申ける
とてかくこそ いくさハ寿永二
年三月下旬乃事御ふ平家ハ
船源氏ハ陸両陣と海岸よりう
こぎよせ勝鬨をあけんとほつせ

上ちん
ワヲ

能登守教経宮ことを年攻
磨の宮ことを備中ノ水鳥ようよりう
船よりうる迄ニ度も味方ノ理なり
つてすでとなる義経ノ使事いを
しるよりうくおりいつよりてて
九郎とをんなりうと行わる

[illegible]れと宣ふ。景清ゝを見て、
[illegible]官なりとハやて見参ゝて、
ハゝゝ命を捨ハあらんと思ひ、
教経ゝ宿所の眺ゝぱるゝとれハ、
源氏の兵あまたゝて近寄
[illegible]ゝ[illegible]ゝゝ[illegible]ゝ
[illegible]ゝゝ[illegible]ゝ
[illegible]ゝゝ[illegible]ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

乃やの頸の骨をつよくまきて縛て
先左のまたも縛る首わとれぬるの
うつり裏へそそ心さく乱まきる
うやそつやつ浮世ハとくもいく程
の命れつるさ実をもやそ立ハ
なるさ法を弟い給へ盲目のくり

ーーー

杜若

冨

是ハ諸國一見の僧なるを我送り
都なれば洛陽乃名所旧跡なり
あく一見仕らんとて是より東國
行脚と志ゆるべくなれども
ミ　ニ　ニ　ニ　ニ　ニ　ニ　ニ　ニ
松ハ　ウ　ハ　ト　ハ　ま　ら　れ　ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さる海ぬしのくぶ物をばいだしと
申しぐ 女「是社三河国八橋とて
つくりたる所にてこがらしの吉乃
杜美をだにおりかけのたゆまれば
いろもかはらぬほとゝぎす
てれ美のゆりもぬ思ひぐさ

孫ぐ詠めて孫へ
ぐ詠ぐ面わき
ぐぐぐ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

わく深きかんの和くれみちまがら
國ぶ所のみ多きまれどもあるまきろ
はまるもまく　思ひ澤りしたもの
三はの乃澤めうふつぐさるぐ
まある様もまぐ　おもしの多を
ものく　自ハもしは業ら

まれども　笠の多ら　人ら
上はこ　在所れ様ま　ふ角ぐてろ
ものく　澤ら　水の流ら
ぬりしハも　稽乃くてまれ
ぐ思ら　ふ通ぐ多を
ものくれ　やぐくまれぬ

二一三ノ下 三ニ ゴニ 者

出ぬるかなくなれば 中ぬ者

事はなれば若年こどもわらべ

みなく 女 ものしれば

頃なくなりぬれば 女 なく

法冠唐さぬぼうしん 作 み

ぎやかなる法 さ ぎやかなるもとり

ぶ色もかやくさぬ とうきぶ 透額の

冠とさぶれみよりもおかるも

いつかる事みなくて ニテ 見そそろの

事よる侍まとる唐 夜高ふれ居乃

御夜ふなくこと 冠 業手の 者

北明乃五命の 者 冠ふれば 形

見の冠りゝ衣ぬぎ捨てゝ帰りぬ

「冠」

冠を衣ハ代へゝ直ぬ袖ゝ濡ぬ

なるゝ

「女」

誠ハ我も枯石竹精

ゝ植おきゝ昔の宮乃枯ると

よみしを女の口まつゝて誠

僧の言葉まゝりつゝ菜平ハ極まれ

歌舞の言葉乃化現まれば讃

ゝわれゝ之の歌までも皆法身

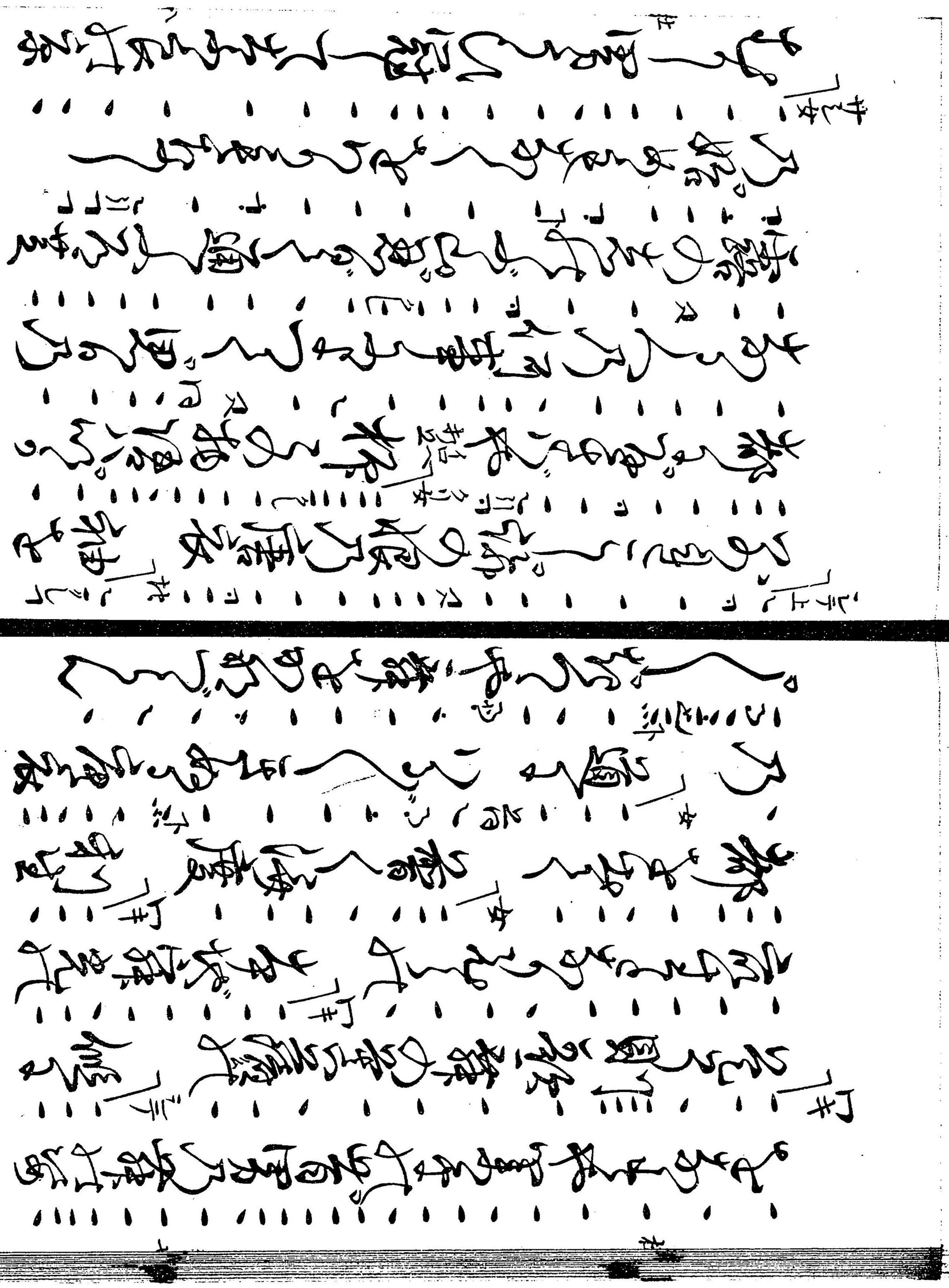
歌詠の妙文まれば草木迄も露

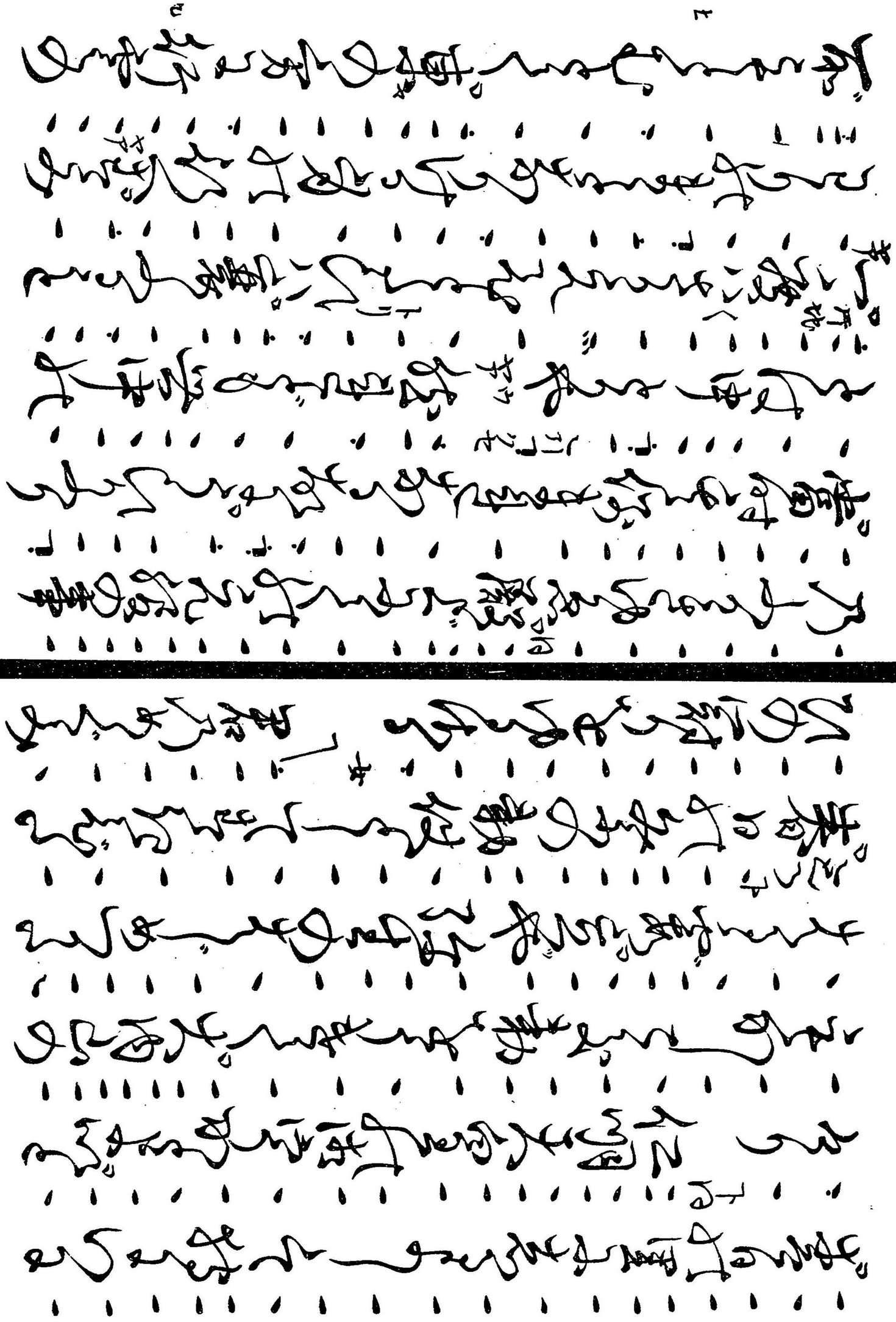
乃恵れ仏界の縁と吊ふなり

「吊」

是ハ実乃字好ふ西ゝ迄精の

芋ゝ羽を吹く次法の色





伊勢や尾張の海づらち浪もん
くるつゞ出くるる方れ出さ
浦こゝ出くるれ海ら浦ら出る
れゆきバ信濃なる浦ら出嶽
なるきやくあくる煙の夕ぎしき
上女
ねこゝ出の夕ぎ川乃ぶきる
出きをくりの出きをくのみやりかゞ
ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出

[illegible]
[illegible]
[illegible]

如の男を陰陽の神といそ
[illegible]
年も暮れてとぐかし
[illegible]
[illegible]中物語かゝりを引よ
[illegible]指くゝ[illegible]ぬる日衣
[illegible]や舞[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

いづまつりや 祇園社
あやめ葺く 上女 軒
きりぎす 鶯 蟬
白妙の 卯の花の
雪の降る 蛍
乃めれあはせ 菖蒲の花
夏草の
今宮祭 祇園社
茅巻 志賀の浦
[illegible]

黒塚

第二段

猩の涙八藤袴に露きそふ
袖や先ぬるらん　見八野なれ
東北院乃阿闍梨就慶と八我す
ゝ、常に　出捨と僧の行住八山
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
仏修行世界より　無明の

順礼廻国ハ皆釋門の習ひなり

二人下

拾ふて社業迷同心ぞ願ひつ

こゝ

こゝ

我

く廻国行脚ぞ慈うんと

ミ

ウ

ぞ行末八

生ンぶを立出ぶ

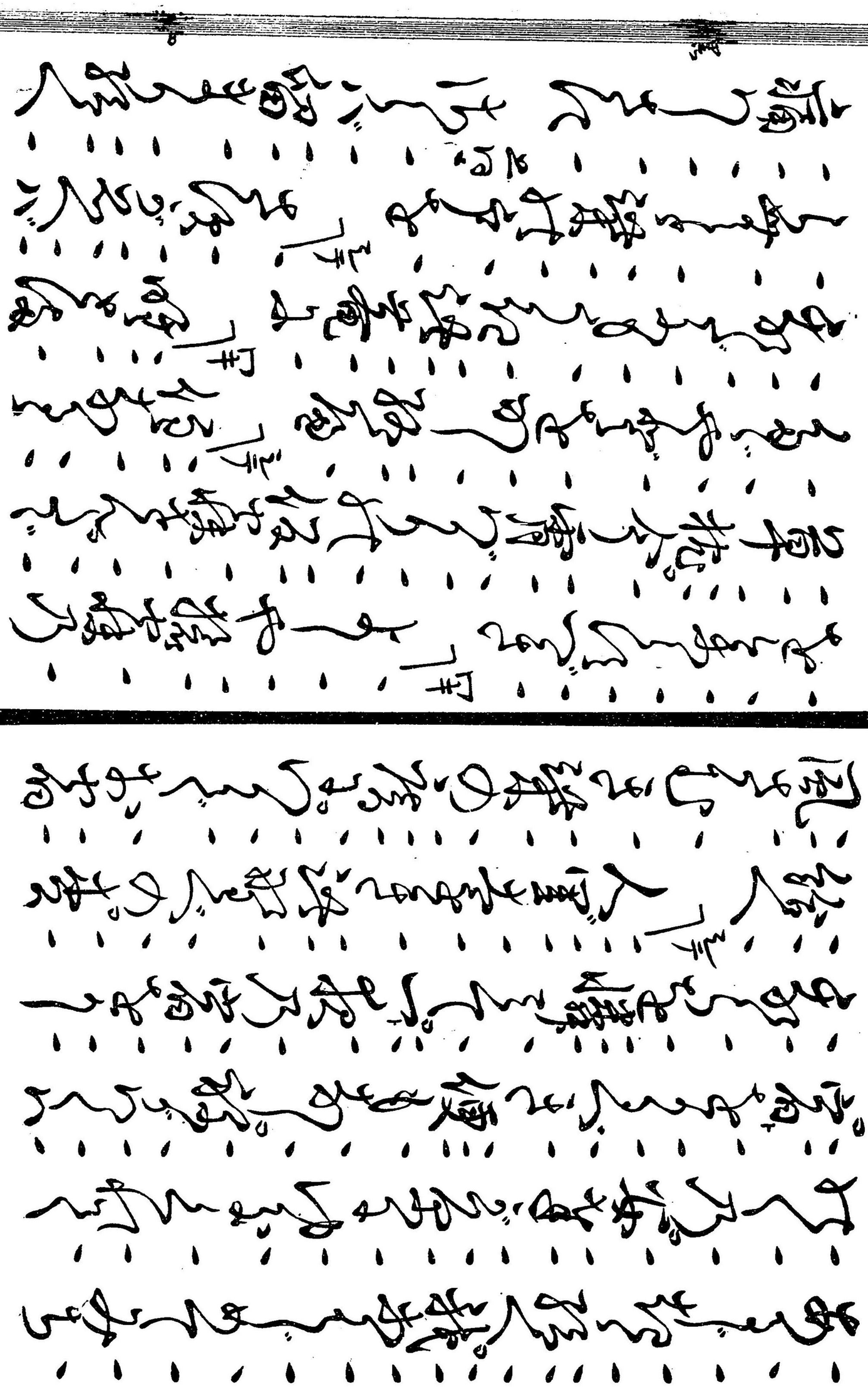
紀乃路ぞ清ぶ清乃うらまて

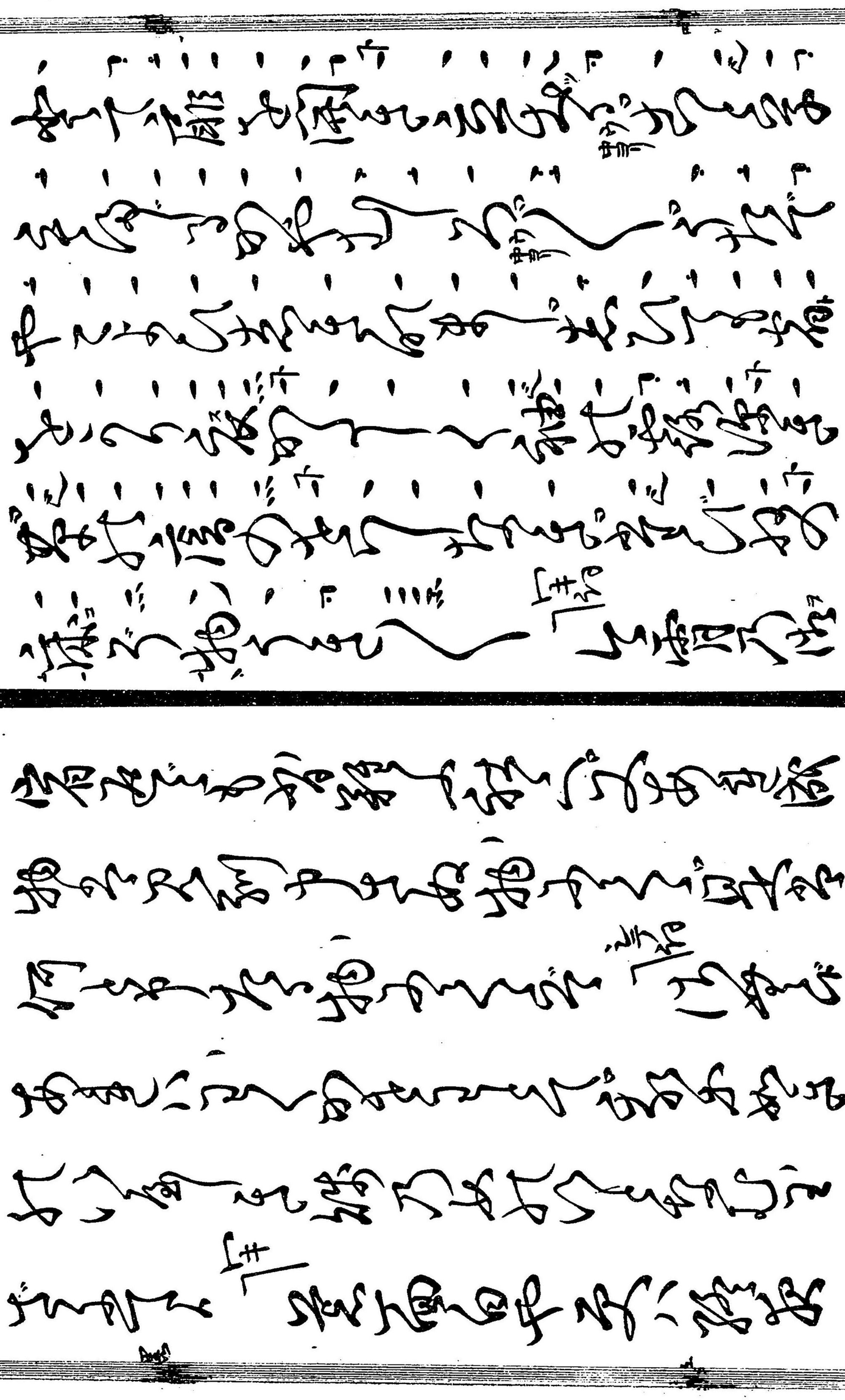
こゝ

こゝ

こゝ

光のみをしる程の宿を
かりやとまれ（サヽ安シテヨク）実わびぬるの
ー　ー　ー　ー　ー　ー
ー　ー　ー　ー　ー　ー
ー　ー　ー　ー　ー　ー





いとあつぐはじかきて　こうばう
やはらぐのみもあるもきたるばかり
あるは賜ぐらばるるものうまれ
今宵とぐる経宮　有れあるぐの情
あるまよれ　月をけいる　閨
のうちる　麻草乃笠を被る
しばらく昔は今のなるまれ
賜ぐうるれよれ　笠
日ばるるれ　はまりや
人男よはまを要ぐ　ぐるれ
あるよ明るしぐを若もあれ
しまよれのまれるの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

道[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

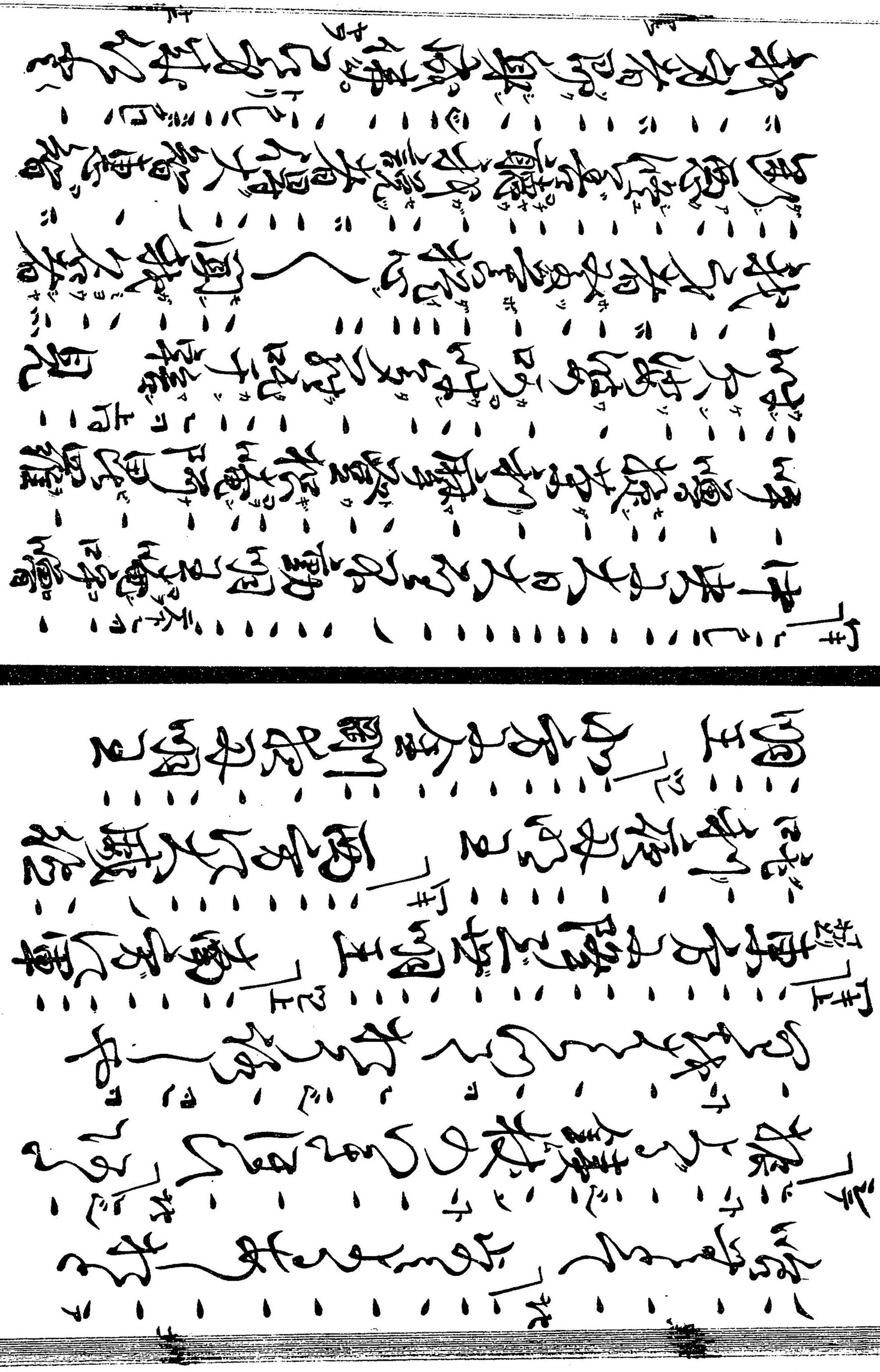
世をちぎりやいとゞぐち我ものゞ
ゆ
なるゝ時はみくもかゝりもの
きれ（上ニ）ねうもあるなりけく
ゆ春の宿やと見ねハ（シテ）日暮
乃条ハ冠をゝ出ハ名ゝ出を
ゆ（上ニ）賀ゝ義のみあきみかゞ

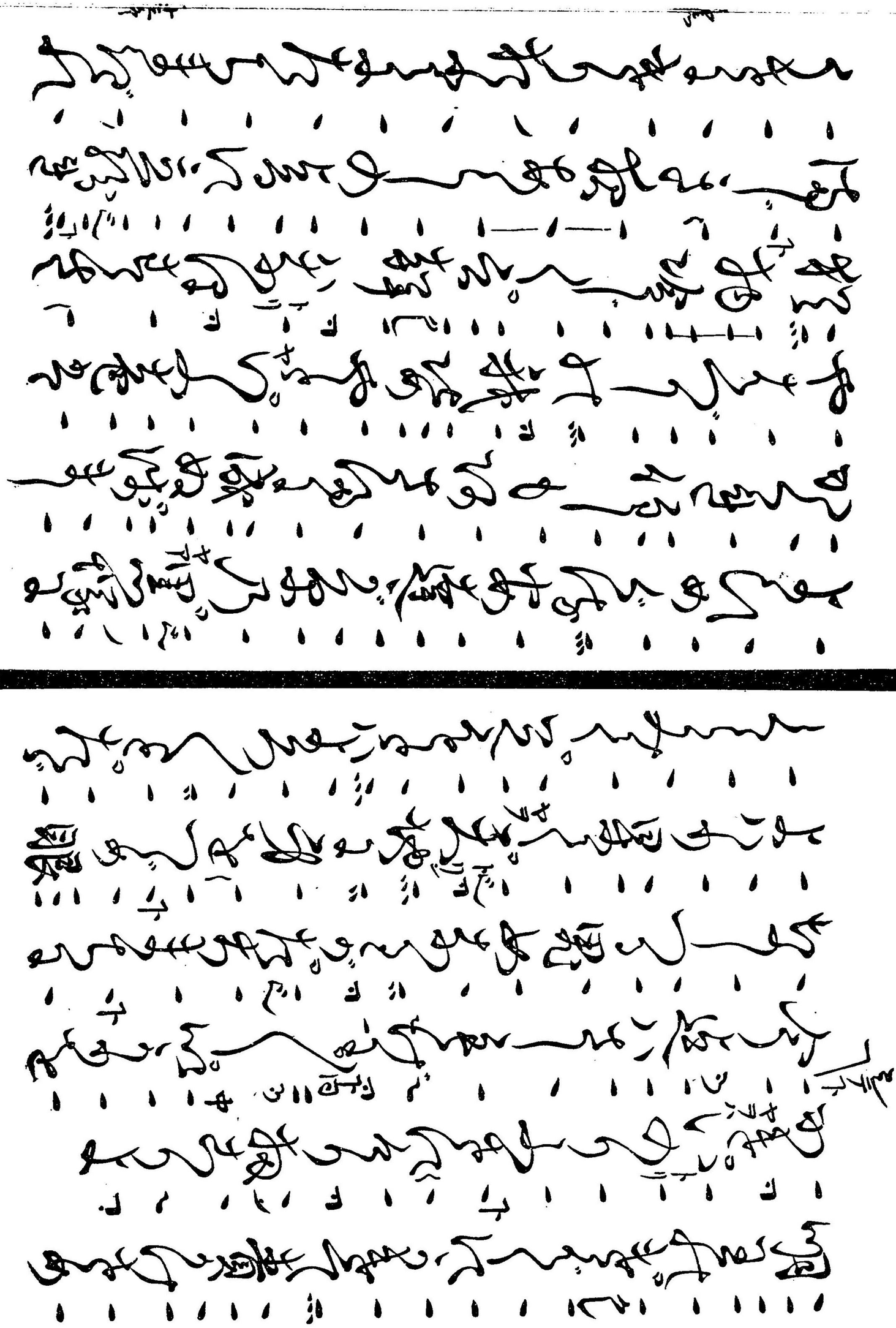
ハ（トシテ）緑もゝ社車と社をけ
ゆ（上ニ）名櫛をゝさゝるゝ嶋ハ（シテ上）ゝ
人おほゝ喜の音（上ニ）穂ゝいづる
秋乃いとゞずゝを（シテ）月みるゝ和
ゆ（上ニ）まちぬゝ（上ニ）いゝ月ゝ賜ゝ
条ハ（シテ）長ゝ条ハゝ

上ニ一トリ ミ ニ ニ ニ ト ニ ニ ニ

左右なく人乃宮まゐりとゝ乃宮僧
みくハ[テ]なくに此方ハ宮僧もほ
ゝ[ロ]ゝ乃ゝ心得申ハ[キカン上]ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃

[illegible]
[illegible]
[illegible]





第三

當麻

教化嬉しさ去のわざ。ぞ。ぞ。ぞ

思ひ作（ウヤ）程をかぐり給ひ紀の路に
冥離（ウ）くぶやこの熊野乃岩
田河の浪もちるあり銅日新よる宣
わかぬ山もちくぶ雪もうかるよ
さきうすに二（タ）どて山の樹木ある當
摩乃寺にてちくふきまわ〳〵

一（ミテサレ）合弥陀仏即時滅無量罪を祝
まゝり八萬諸仏殿皆是阿
弥陀もひりぎる作（ミテ）稱迦を
やまに（ロ）弥陀を導く一筋有
二人（ミ）ぶろゆもとの南世ひみぶ仏
唱（モヨモテ）まバ仏も我を為まゆ

南無阿弥陀仏の名ばかり「唱へて」
道ハ頼もしやウ濁りふかまぬ蓮
乃名濁りふかぬ花の色ぞ
なほいつくしきぬん「ミテサセ」有難や
諸仏のちひ様ぐまれ給ふ
超世の悲願とく。迷ひの中より
[illegible]
残る方のの雲ハ晴ぬ雨ぬ
乃月の影をぶるぶるぶるぶる心ゆく
名をや西方と言ひ浦むんぶるや
頼めばくもる道と何ぞくや
西方ぶるぶるぶるぶるまの学る迷ひ我
おぐ為ぶれやウヤ法ぶるは法ぶ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
乃井もゆかとやあまの當麻
[illegible]
者 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
聞ばあるとも。[illegible]
[illegible]
いまは。唯一筋[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

桜ぶれば花の有るかと見て
咲きにけり　中務
よりもまづ風に成の色香
うめる花心の　法印定家
そめ置く　清輔朝臣
咲きを　出家前参議雅経

遅るとほ花ハ　そばだてる色
そそぐ　掛け置きのんぐ
ウぐ花の縁はれたくぬるれ　中務
咲きまして晴屋ることを孫ハ
色ハ一花の縁や西ぬく　前
秋のうぎ　拾く

當麻の曼陀羅の縁起物語

栗花落拾遺當麻方丈尊を申

八人皇四十代乃御宇かと

よ。授戒の右大臣藤原と申

き人（ヒトヲ）（ヒトヲ）（ヒトヲ）

一向に念佛三昧乃至臨終の時

和山陰の松の風涼しくして

ゆく夏とこそ水の音も絶ぐ

心耳をすまして

名聞利養乃ゆうれい禪門

乃宮のうち寂寞として

ふ人の老尼は怠惰とまり

出でぬ。日ハ山の彼方へ

と尋ねさせ給ふ。老尼答へ

く宣たく。誰とハなく

よべばとうまりたまと仰せられ

き給ひ給ふ。中ハ然すあるべきて

テ上

我が雑きよ[illegible]ぶてぐるだつきと

らぬ山中にて庵ヤアらるる迷ハぬ事

ひつぶ仏の唱へ[illegible]ぬ[illegible]で又他ぐを

なき拙きと宣へ[illegible]ヤれて光人

[illegible]我が[illegible]き庵を[illegible]ぬ[illegible]

きりと宣へバ姫君もねハ迷頭宋

新[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

れはヤよりと減源野よめ[illegible]ヤ編

[illegible]

羅衣の[illegible]も[illegible]

[illegible]

[illegible]ウ[illegible]

[illegible]

テ人上

[illegible]

ヤ[illegible]

時ぞの時そなたのばばどもおちんを
今は世にさてたる事は
為るものとやいつあるさる
ぞ易今は何ものつるべでぶつれ
いつもへの仏は仏は乃いなる
現ぞ来れりと
そなあねだ

ものくさてそなたの異香薫ど
ぶる聖乃竜はやはりや指ぐ
よ脇申て物くる山のぶどれ嶽と
にぶ
ぶどの山くるるるぶばそ
世尼ぐのぼりし山まる故ぶ尼
ど乃嶽ふ申まる若乃ものを

の所ゝどるやうなる業くあげきと
譬やうなる事くあげらるゝ
申雖さたすあれば重ねく奇
物をおぼしまゝと
ぞうぞうやかく
ぬぎちらさく
ゝ乃ぬ乃業ゝ為のまれあ

たり。彼まき孤ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

法ナレバ　信ズル事
そらごとやすくし　唯たの
頼めやたすけめ　慈悲加被　令
心不乱ト　みだれなよ　ナ
ナ尼ヒ　一声ヒ　有ルヒ
ほとけの鐘の音　始まれる

ひとへに称名の妙音を見聞法
いろくの法ぐもあれども
実に遍照ナ方ぞとたぶ西
方ぞくゆく係のみ新のみ
なもあぶ法乃ねのさとをぶ
引まのゆえ対おそちのぐとぞ

249
1

著作權所有

寛政十一年三月初版
明治二十六年七月改訂三版
明治四十三年六月增訂五版
明治四十四年五月廿八日增訂六版印刷
明治四十四年六月一日發行

嘉永六年五月再版
明治三十五年八月改訂四版

著作者　寶生太夫

相續者　東京市深川區吉永町七番地　寶生九郎

編輯者　東京市日本橋區通四丁目八番地　江島伊兵衛

發行兼印刷者　東京市日本橋區通四丁目八番地　椀屋謠曲書肆

發行所